



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日		オヘスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足					
3/18 (月)	+ 400	+ 10,900	+ 11,300	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 貸出増加 社債等買入	+ 32,100 + 52,600 ▲ 100	国債買入 + 13,400	日: 日銀金融政策決定会合 (1日目) 欧: ユーロ圏CPI (2月)
3/19 (火)	トン	+ 14,000	+ 14,000		共通担保	▲ 8,300		日: 日銀金融政策決定会合 (2日目) 米: FOMC 1 日目
3/20 (水)					春分の日			米: FOMC 2 日目
3/21 (木)	▲ 1,000	+ 79,000	+ 78,000	国庫短期証券発行償還 (1Y) 国債償還 (5年・10年・20年)			社債等買入 + 1,000	日: 貿易収支 (2月) 米: PMI (3月) 欧: PMI (3月)
3/22 (金)	トン	▲ 5,000	▲ 5,000	流動性供給				日: CPI (2月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、国債買入等により、前営業日対比8,700億円増加の531兆800億円から始まった。その後、国債発行、源泉税揚げ等の要因により変動し、15日には、530兆9,600億円 (速報) で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初▲0.010%から始まった。その後も同程度で推移したが、週末3日積みである15日は取り手の調達意欲が旺盛となり、同金利は▲0.005% (速報) まで上昇した。

ターム物は1W~1M物を中心にプラス金利で散発的に出合った。

来週の予定は、国内では18・19日に日銀金融政策決定会合、22日にCPI (2月) の公表、海外では19・20日にFOMC、21日に米PMI (3月)、ユーロ圏PMI (3月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.010 ~ 0.010
2M	0.000 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GC取引は週央まで概ね▲0.12%~▲0.10%のレンジを中心に推移。週後半は▲0.095%で出合い始め、3m短国の入札が行われた週末は▲0.08%近辺の出合いが中心になった。SC取引は2年438~458回債、5年149~166回債、10年350~373回債、20年180~187回債、30年65~81回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.05 ~ 0.15

<CP>

今週の入札発行総額は約7,800億円で、週間償還額の約1兆4,600億円を下回った。発行市場は、小売りや医薬品等の一部業態で大型の発行が見られたものの、事業法人による決算期末の有利子負債圧縮に向けた動きから償還超となった。発行残高は先週末時点の27兆1,596億円から3月14日時点で26兆8,600億円に減少した。発行レートは、概ねベース台半ばから0.1%台前半での出合いが中心であった。

来週の償還額は、約9,600億円となっている。発行市場は、引き続き事業法人の負債圧縮に伴い償還超となることが予想される。発行レートは、金融政策決定会合を挟みレート目録が定まりにくい展開が見込まれる。

<TDB>

15日の3M (1219回債) の入札は、最高落札利回り0.0279% (前回債▲0.0409%)、平均落札利回り0.0055% (前回債▲0.0606%) となった。来週は、18日に1Y、22日に3Mの入札が予定されている。